

折に触れ 四字熟語

NO.112 『在邇求遠』 ざいじ きゅうえん

< 意味 > 人の踏み行ふべき道は身近な所にあり、また、自身の中に求めるべきなのに、人はかえってこれを遠い所に求めようとするということ。道は日常卑近なところにあるので、いたずらに難しい理論を弄すべきでないことをいう。

< 出典 > 「孟子」<離婁篇>
「・・・」

孟子曰、道在爾。而求諸遠。事在易。而求諸難。人人親其親、長其長、而天下平。
・・・」

読み下し： 孟子曰く、「道は爾^{ちか}きにあり。しかるにこれを遠きに求む。事は易きに在り。しかるにこれを難きに求む。人人その親を親とし、その長を長とせば、天下平らかなり」。

通 釈： 『道は身近にある。だが人は遠くにあるものと思っている。それを実践するのはたやすい。ところが人はむつかしく考えている。各自が親を愛し、目上を敬いさえすればよい。それで天下は泰平となる。』

語 釈： 「邇」は近い、出典の「爾」はなんじ、おまえ、その、それなどの意味ですが、両方とも音は「ジ」「ニ」と同じなのでこのような漢字の使われ方がされていたようです。

一 言： 孟子シリーズ その1

人物としての孟子はご存知のとおり中国、戦国時代の魯の思想家です。孔子の思想を継承し祖述して「孟子」を残しました。

参考文献： 徳間書店・中国の思想「孟子」 岩波書店「四字熟語辞典」